

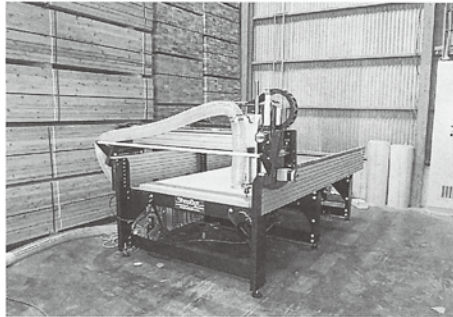
ShopBotを導入 一枚板の加工場・ショールームを拡張

村上木材

村上木材(大阪市、佐原謙次社長)は、グループ会社のプレテック(同、矢山勝司社長)のプレカット工場に3次元CNC加工機ShopBotを導入した。プレカット工場の端材活用やムク一枚板のテーブルの加工販売を行うオフィスM'sなどで利用していく方針だ。

村上木材では本社隣にムク一枚板の加工や

ショールームを備えたオフィスM'sを展開しており、現在、従来の工房、ショールームスペースの隣に木造3階建て加工場・ショールームを増設している。延べ床面積は165平方メートルで、9月末完成の予定。完成後はShopBotをオフィスM'sに移設する予定だが、当面はプレテック工場内に設置する。ShopBotは4×8



プレテックの工場内に設置されたShopBot

タイプで、佐原社長は「当社ではムク材を中心に加工をしていく。一枚板のショールームも工房と一体となっており、その場で加工できることが差別化につながっている」と話している。

加工の範囲を広げていく方針。

プレテックでは7月に宮川工機の横架材加工ライン(MPS-55)を導入する予定。村上木材は、2月に130周年を迎えた。

若手社員のアイディアを生かした商品づくりを進めていきたい考えだ。

新工房にはルーターやベルトサンダーなどの木工機械も設置し、